

R.8、7、14(日)

疲れを知らない子どもたち

今、なかよし週間中です。10日水曜日、児童会の計画による「全校こおり鬼」が業間に行われました。全校と言っても、強制ではありません。やりたい人が集まってやるというものでした。それでも、全校の半数近く集まったでしょうか。

赤帽子の鬼役は、企画運営委員会のメンバー。

「10、9、8・・・」とカウントダウンが始まると、白帽子の子たちは一斉に校庭に散らばりました。

「4、3、2、1、スタート！」

捕まえようと追いかける子、捕まるまいと逃げる子、捕まってしまって凍る（その場に留まり動けなくなる）子と、校庭いっぱい走り回る子どもたち。

特別な工夫がされた「こおり鬼」ではありませんでした。ただただ、逃げて、追いかけて、凍った友だちを助けて…を続けるものでした。写真を撮りながら見ていたわたしは、「凍った人は帽子をとって分かりやすくすればいいのに」とか「少し時間を短めに区切って、メリハリをつければいいのに」などと思っていました。

けれど子どもたちは、楽しそうでした。はあはあと息を弾ませながら、時折「疲れた～」と言いながら、それでも、時間いっぱい鬼ごっこを続けるのでした。1年生も6年生も。なんとも、疲れ知らずの子どもたちです。そして、変な理屈抜きで、ただただ、みんなで走り回ることを純粋に楽しんでいました。

「これが子どもなのかあ。俺たちは何でも、難しく考え過ぎてるんだなあ…」ふと、そんなことを思ったのでした。

